

視察調査報告書

委員会名	議会運営委員会
参加者	委員長 磯部 亮次 副委員長 加藤 嘉哉 委員 野本 篤 野島さつき 井町 圭孝 野々山雄一郎 小木曾智洋 小田 高之 議長 杉浦 久直
視察日時	令和5年5月15日（月）13：30～15：00
視察先・概要	大阪府和泉市 人口：18万3,214人 世帯数：8万1,570世帯 面積：84.98k㎡
視察項目	議会改革について
視察概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 議会傍聴席への音声表示モニター設置の経緯 開かれた議会に向けて、議場及び委員会室で聴覚障がい者等にも会議を円滑に傍聴してもらえるよう環境を整備 2 導入システム <ol style="list-style-type: none"> (1) UDトーク 音声認識で声を文字化することで聴覚に障がいがあるかたを支えるなど、様々なコミュニケーションをサポートできるアプリで、単語登録により再現率の向上につながる。 (2) ヒアリングループ受信機 難聴者の聞こえを支援する設備で、マイクを通した音声を直接補聴器へ伝えることができるもの。 3 実際の運用 <ol style="list-style-type: none"> (1) UDトークは、移動式のモニターへ文字を表示している。また、単語登録機能を積極的に活用し、精度向上に努めている。 (2) ヒアリングループは、ループ線を議場傍聴席及び委員会室の床にはわせて、音声磁場をつくり、受信機を使用できる環境としている。 4 導入の効果 <ol style="list-style-type: none"> (1) 聴覚障がい者が複数名傍聴に来て、UDトークを目的に傍聴に来た人もいる。 (2) 会議中、早急に音声を確認する必要がある場合、テキストデータを利用することで円滑な議事運営につながっている。 5 今後の課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) どのような単語に誤変換が多いかを研究する必要がある。 (2) 無償版は1アカウントしか取得できない。 (3) ヒアリングループは導入から現在まで使用実績はない。

	<p>6 議会DXの推進 タブレットを導入して、ペーパーレス化を推進している。</p>
<p>所 感</p> <p>※視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた議会に向けた取組として、議場、委員会室に設置されているモニターに、会議音声を自動文字起こしするUDトークというアプリを導入している。聴覚に障がいがある人にも議会の傍聴に来やすい環境整備に努めている。実際に、視察時にUDトークを使用して説明を受けたが、発言内容の文字起こしは想像以上に精度が高く、発言とほぼ同時に変換されるため、見ている側にとっても全く違和感を感じることなく傍聴ができた。また、このアプリは、テキストデータとして取り出せるため、議事録等を効率よく作成できるというメリットもあるとのこと。本市においても、導入の検討をする価値があるものと考える。 ・音声認識文字起こしアプリのUDトークの利用による「声の見える化」の実施については、聴覚障がい者や高齢者に対しての情報保障の観点から必要な取組であると感じる。文字起こしアプリの音声認識の精度が心配であったが、簡易な備品や設備で十分な効果が得られていた。専門用語の認識は困難であるが、アプリ内の単語登録機能での対応によってクリアされていた。また、文字起こしアプリを考慮した話し方が必要かと考えていたが、話すスピードが速くても認識していた。議事録の作成にも大変有用であると理解した。傍聴者に対してモニターの設置等はあるが、導入コストの割には効果が非常に大きいものと感じている。 ・近年、スマホアプリにも音声認識文字変換機能があり、聴覚障がいのある人とのコミュニケーションも取りやすくなった。議会の傍聴においても、話していることが文字としてすぐに反訳されることで、手話が分からない人にも非常に有効であると感じた。運用に当たっては、人名、地名、事業名、よく使われる用語等、単語登録機能を積極的に活用するとともに、議員も執行部も、より分かりやすい表現で質疑をする必要を感じる。本市では事前に連絡があれば、傍聴時に手話通訳者の派遣やヒアリンググループの使用が可能だが、音声表示モニターがあれば、もっと気軽に傍聴してもらえらると思う。開かれた議会に向け、検討に値するものと感じた。 ・iPadとUDトークを活用し、音声を文字に変換して傍聴席に表示させる取組は、聴覚障がい者にも会議を傍聴してもらえらる機会を提供することができるため、非常によい取組であると感じた。また、音声から文字への変換精度を高めるために、マイク入力+iRig 2（雑音を除去する機器）接続、単語登録機能の活用などに取り組まれている点も非常に参考になった。今後、ICT検討部会の中でもUDトークの活用体験会を行う予定のため、今回学んだことを生かしながら、和泉市のような聴覚障がい者向けの表示についても検討していきたい。 ・UDトークに関して、iRig 2を接続することでより正確な訳が可能

	<p>になると確認した。聴覚障がい者だけでなく、少し耳の聞こえが悪い人、耳の聞こえは正常だが発言者が早口で一瞬間聞き取れなかった、また発言者の滑舌が悪く所々が聞き取れず、文章の流れが分からなくなった等の際にも、ほぼ正確に訳せるUDトークは、議場での傍聴者への取組として効果が高い。議会事務局での議事録作成にも有効である。また、UDトークは多言語にも対応できることから、議場だけでなく、災害時に向け、外国人避難場所での活用も可能と考える。様々な有効活用のためにも、議員研修としてUDトーク実践を行いたい。ヒアリンググループの貸出しははまだないとのことで、議会のみで取り組むには疑問は残る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会改革の一環として、傍聴席モニターへの会議音声の表示、ヒアリンググループ受信機の設置等、聴覚障がい者に対する環境整備、DX推進についての説明を受けた。DX推進に関しては本市のほうが若干進んでいる感を受けたが、議会傍聴における聴覚障がい者への環境整備は和泉市の方がはるかに進んでいる。会議音声の表示では、UDトークというアプリにより音声の直ちに画面表示されるシステムの導入は本市においても必要と考える。傍聴者のみならず、議会事務局の負担軽減にも大きく寄与する。また、和泉市の市役所建屋が新しいためであると考え、傍聴席自体が様々な傍聴者に対する配慮がなされていた。本市でも時期を見計らい、改修が必要であると考え。 ・UDトークによる会議音声の自動文字起こしは、専用の機器を使用することにより、かなりの精度で利用できることを認識した。本市においても導入の検討が進められているとのこと。開かれた議会のために必要と感じた。
<p>委員長の総括</p>	<p>傍聴席への音声表示モニター設置については、先進的であると率直に感じる場所である。UDトークアプリを使い、同時通訳的に音声を文字情報化し、モニターに映すものである。文字変換においては、人名や固有名詞、専門用語など、変換されにくいものも多く、都度単語の登録を行い再現性を高めている。また、iRig 2を使い、マイクの音声をアプリにライン入力することで、より精度が高まっている。</p> <p>また、ヒアリンググループは、機械を通して難聴者へよりクリアな音源を届けるものである。傍聴席の方にやさしい環境づくりとしては、本市でも研究をする価値がありそうである。</p> <p>特に、音声の文字情報への変換は、一般的な傍聴者へも分かりやすさの面で効力を見いだせそうである。</p>